

備えて安心 60

南海地震などあらゆる災害への備え

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすいです。中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。集中豪雨は突発的に発生するので予測が困難であり、ときに大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日頃から備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを紹介します。

少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。

【知る】地域の状況を知る

お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておくことが大事。自主防災組織などで危険な場所、避難場所、避難経路

などを確認・点検し、落ち合う場所を決めておく。

●気象情報など情報の入手

台風の接近時や雨が降り続いたりしたときなどは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意する。

※雨量などに関しては左図参照。

【備える】

●非常持ち出し品の確認

飲料水や食料、避難のために必要なもの（懐中電灯、ラジオ、衣類など）、個人ごとの必需品（持病の薬、生理用品など）。

●住まいの点検

- 瓦やアンテナは固定されているか。
- 雨どいが詰まっていないか。
- 外壁に亀裂はないか。

●窓ガラスにひび割れ、がたつきはないか。

【行動する】

●風水害時の避難の注意点

- 動きやすく安全な服装とし、足元は運動靴にする。
- 道路などが浸水してしまったら側溝などが確認できないので、杖を持って足元を確認しながら歩く。
- 単独では行動せず、家族や近所の人と行動する。
- 避難勧告などが出ていなくても、危険を感じたらすぐ避難する。

▼避難の呼びかけを待って行動するのはなく、危険を早めに察知し、正しい情報に基づ

き早めの対応を心がけましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが被害の抑制につながります。

消防団員募集!!

地域に密着している消防団は、「自分たちの地域は自分たちで守る」ため、地域防災の要として、火災発生時の消火活動、地震や風水害などの大規模災害発生時の救助・救出活動、警戒巡視、災害防衛活動などを行い、地域住民の生命と財産を守り続けてきた歴史があります。また、災害発生時だけでなく、平常時においても訓練、防火指導、広報活動など、防災力の向上や地域に密着したコミュニティ活動などに「地域の防災リーダー」として重要な役割を担い、深い信頼を得ています。

かけがえのない私たちの町をあなたの力で「安心」の町にしてみませんか。

○ご相談・ご連絡は最寄りの消防分団、または左記のお問い合わせまでお願いします。

雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨がふると、地割れや地表が流されたり、ガケ崩れの危険が予想されます。



1時間雨量
5~15ミリ

●地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる。



1時間雨量
15~20ミリ

●地面一面に水たまりができ、雨の音で話が聞きとれない。



1時間雨量
20~30ミリ

●いわゆる土砂降り状態で下水があふれる。



1時間雨量
30ミリ以上

●バケツをひっくり返したような雨が降る。

このページの記事に関するお問い合わせは、以下にお願いします。【本庁】総務課 消防防災係 ☎43-2112(直通) 【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第一係 ☎55-3113(直通)